

# 「色で遊べ」 ガラスビン塗装の魔術師



## 和光化学工業株式会社

### 3万種のビン 自由自在にガラス塗装

「高級化粧品は国内の大半、飲料も約半分のシェアを持っています」と黒瀬直彦社長。日本で作られる化粧品ボトルの塗装の大半が、和光化学工業の手によるものだ。

ガラス容器塗装を手がける同社では、約3万種ものビンと抜うことで、形も色も様々な美しいボトルを作っている。

「色の世界はコンセプトが大切。美白だから白いビン、高級感を出すためにパールを使う等、用途に沿って色を作ります。センスを活かし色で遊ぶことも大切。若い職人たちには、「色で遊べ」といつも言っています」。

### 多層塗りに対応 7色の塗り分けが可能

主に金属塗装に使われる「静電塗装」をガラスに応用した独自技術が同社の強み。マイナスイオンで、塗料を吸着させる静電塗装は、非常に薄く均等な塗装を可能にした。

また、多層塗りにも対応。7色の塗り分けができるラインも有しており、一見、本物の陶器と見まがうようなビンも製品化している。紫外線をカットする透明コーティング技術では、塗装の分野から味や品質の保持までを担う。

黒瀬社長は言う。「女性にとって化粧品は宝物。ビンは手元に置いて、毎日目にするものなので、少しでもミスがあつてはいけません。製品のチェックにも細心の注意を払います」。

塗装されたビンは一つひとつ丁寧にチェックされ、合格したものだけが出荷される。針先ほどの塗りムラやほんの小さなヨレも決して見逃さない、厳しい目になつたビンだけが出荷されていく。

### ビンのリサイクルにも注力

同社ではビンのリサイクルにも力を入れる。

「リサイクルは、ビンを細かく砕いて1200〜1300度の高温で溶かし、再度ビンを作る方法で行います。非常に高温ですから、塗装も炭化し、すべて透明になります。ビンを洗浄するリターナブル方式もありますが、水を使わない、汚さな

いという面で環境への負担も小さいと思います」。

利便性が高く、環境負荷は低いビン。塗装により品質保持力が高まり、高級感やオリジナリティもこれまで以上に幅広く表現できるようになった。

今後、同社においては環境活動が経営の最重要項目となる。

「ビンの再利用をさらに進めていき、人にも環境にも優しい製品を、すべてのお客様に提供していきたいと思っています」。ガラスビンから世界は無限に広がる。

#### 主な事業内容

ガラス容器・ガラス製品の静電塗装・樹脂容器の静電塗装



黒瀬直彦さん  
代表取締役社長

#### 和光化学工業株式会社

#### Company Profile

住所 〒547-0002  
大阪府大阪市平野区加美東2-2-28  
創業 昭和22年4月  
設立 昭和43年7月  
資本金 9,000万円  
従業員 90名 (平成21年1月現在)  
TEL 06-6792-5525  
FAX 06-6796-3660

関西  
19

<http://www.wakokagaku.co.jp/>